

## 福岡県山岳連盟の自然保護の取組みと福智山バイオトイレ

西守 信二（福岡県山岳連盟事務局長）

### 1. はじめに

福岡県には、日本百名山などの有名な山はありませんが、県境を 1,200m クラスの山地で囲まれ、比較的登山道も整備され日帰りで登れる山がほとんどです。気候は、暖流の対馬海流の影響を受けるため比較的温暖ですが、冬は福岡・北九州地方は大陸高気圧から吹き出す季節風で雪が降り、朝は氷点下のところもあります。夏は 35℃ を越す猛暑日もありやはり九州の夏の暑さは厳しいものがあります。

福岡県山岳連盟は、昭和 23 年 3 月、県内の山岳会によって設立された団体で、現在加盟団体数は 37 団体、会員数約 2,500 の団体です。昭和 20 年代の黎明期を経て、昭和 30 年代からの海外登山ブームに乗って、ヒマラヤ・アラスカ・アンデスなど世界各地に海外遠征を行ってきました。最近では若者の山岳離れ、少子高齢化などの影響もあり、加盟団体数も減少傾向が続いています。一方では近年のスポーツクライミングの普及や環境意識の高まりから新たな活動が芽生えています。昨年（平成 19 年）6 月には「山のトイレを考えるフォーラム in 福岡 2007」を初めて開催しました。

### 2. 福岡県山岳連盟の自然保護の取組み

#### （1）山のトイレを考えるきっかけ

福岡県には菅原道真で有名な大宰府天満宮があります。その北東に宝満山という霊峰山があり、古くから修験道の霊峰として崇められて来ました。山頂にはキャンプ場がありトイレはありましたが、貯留放流式で周辺環境保全の課題がありました。「宝満山頂キャンプ場にバイオトイレを作れないか」で有志が集まり話し合いを進めてきたところ、山のトイレの問題は簡単には解決しない難しい問題であることが分かってきました。その後何回か検討を重ねるうちに、宝満山だけでなく福岡県全体の山のトイレ問題として考えようということになり、関係 7 団体が「福岡の山のトイレを考える会（仮称）」を結成して、その中で環境問題を登山者に考えてもらう一つの活動として「山のトイレを考えるフォーラム in 福岡 2007」の開催につながって行きました。北海道の山のトイレを考える会から仲俣善雄氏を招き、北海道の事例の講演後、福岡県の山岳関係者より、それぞれの地域での山のトイレ問題の現状報告とパネルディスカッションを行いました。

今回山のトイレフォーラムの開催にあたっては、多くの山岳団体が協力して活動できたことは、福岡県の山岳関係者にとって貴重な経験となりました。

#### （2）福岡県山岳連盟の自然保護の取組み

福岡県山岳連盟においては、山のトイレフォーラム開催の動きと平行して自然保護指導員の養成を行いました。上部組織である社団法人日本山岳協会には自然保護指導員制度がありましたが、福岡県には指導員は 0 名で、指導員の養成が必要でした。

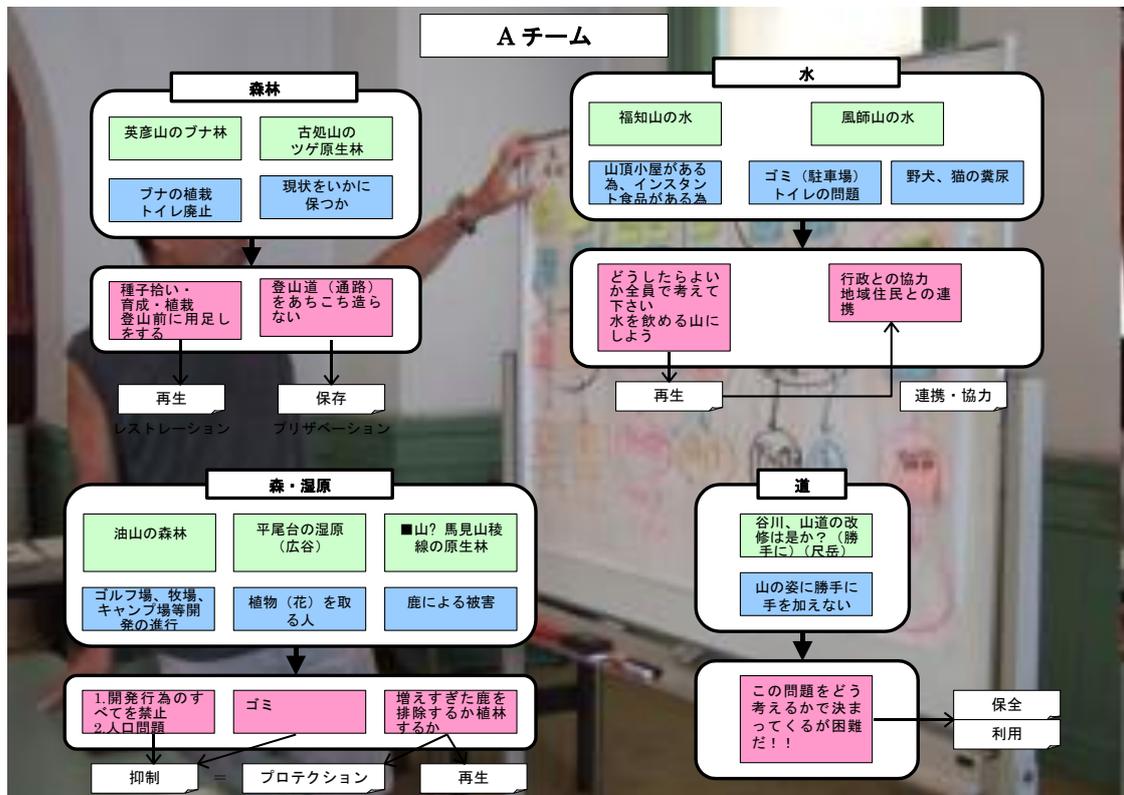
そこで、平成 19 年度になって、既に山岳スポーツ指導員を取得している会員を対象に自然保護指導員を養成しようと考えました。しかし、自然保護とは何をするの？そもそも自然保護とは？という手探りの状態から始めなければなりませんでした。その中で、山のトイレフォーラムを養成講座の一つとして位置付けることとしました。トイレは身近なテーマであり取り付きやすい点もありました。

### (3) 自然保護は参加型で

福岡県山岳連盟の自然保護への取組みの基本的な考え方として、自然保護活動はあくまでも個人が自主的に自発的に行う活動であり、決して組織や団体がテーマを決め旗振りをして事業をしようということではない、という認識がありました。

そこで、自然保護の基本的な知識を得ながら自ら自然保護を考える講習会を 3 回シリーズで行いました。そこでは、課題発見と解決を参加型で行うことを重視してワークショップ方式の検討会を加えました。福岡県を 4 つの地域（福岡地区・北九州地区・筑豊地区・筑後地区）に分け、地元に住む人が近場で活動できるフィールドを決めました。次に、その地域の自然環境の課題を挙げ、それをテーマごとに整理し、解決のために何をするかを地域ごとにまとめていきました。表 1 は、A チームで考えた自然保護の活動構想です。

表 1 福岡県山岳連盟自然保護の活動構想(発表例)



英彦山ではブナの森林を守る。古処山のツゲ原生林を保護する。ゴミ・登山道の問題などの課題が整理されました。解決の方法として再生や保全の方法を検討するなどが話し合われました。これらを山域の指導員が自主的な活動として行うこととしました。現在 21 名の自然保護指導員が活動を始めています。その中で、福智山では以前から水の汚染問題

がありました。山頂小屋からの汚水やトイレの問題が昔から懸念され続けてきた福知山では、独自に民間人（山岳関係）を中心にトイレ建設の検討が自主的になされていました。

### 3. 福智山バイオトイレの取り組み

福智山は北九州国定公園に属する福智山地の最高峰（901m）で、北九州・直方・田川市の境にあります。登山口から1時間30分程度で九合目の避難小屋に到着できる日帰りの山として賑わっています。この山に平成18年11月、避難小屋の敷地内に福岡県ではじめてのバイオトイレ（オガクズ利用）が民間主体で完成しました。

表2 福智山バイオトイレの利用状況

利用者数	設置費	電気	清掃費・燃料費
年間 13,000人	約500万円	軽油発電機	ボランティア・募金

バイオトイレは、適正な維持管理によって長期に性能が保証されることが必要です。トイレ利用者は、設置から年間13,000人を超えました。最初こそ生理用品の投入などありましたが、現在は利用者のマナーも向上し順調に稼働しています。

#### (1) 行政との協働と市民参加型のバイオトイレ

##### ○ 市民参加型トイレ

トイレ建設の資金調達は行政（直方市）からの補助金に加え、一般市民からの募金や寄付でまかなうこととしました。これにより多くの市民が福智山のトイレの建設に関わったという気持ちを持つことができました。

##### ○ 行政との協働

行政（北九州市）からはバイオトイレ本体（250kg）の消防ヘリでの輸送の支援が得られたことから、設置にかかる時間と費用を節約できました。

##### ○ 荷揚げも一般登山者で

小屋の建築材料の荷揚げも、出来るだけ一般登山者に係わってもらう目的で登山口に材料を置き、荷揚げできる人が自主的に可能な範囲で荷揚げしました。

##### ○ 小屋建設は手作り

小屋建物（10平方メートル）は山仲間の大工さんが中心となり、仲間が協力して作り上げました。完成後も臭筒管の追加など改良を続けています。

##### ○ 燃料費（発電機用）

燃料費は建設時に集めた募金と現在も続けている寄付で賄っています。当初使用料金も考えましたが、お金の盗難などがあると登山者に罪を作ることになるということで資金が続く限り無料でいこうということになりました。

##### ○ トイレのマナーは良好

福智山バイオトイレはとにかく綺麗である。週に2～3回ボランティアのメンバーが発電機用燃料（軽油）を荷揚げし、発電機への燃料補給とトイレの点検と清掃を実施しています。トイレの故障が無いのは、利用者のマナーが良いこと、マナーを守らせているのは、

いつも綺麗にしているためである。メンバーの献身的な活動と多くの登山者が建設にかかわったという気持ちが、福智山バイオトイレの成功のカギとされます。



図1 福智山バイオトイレの活動メンバー(トイレの前で)



図2 いつも綺麗なトイレ

## (2) 登山者自身をトイレ管理にどのように係わらせるか

福智山のバイオトイレの取組みから分かったことは、登山者自身がトイレの建設時から係わる事の重要性であります。まず、少なくとも良いから募金を募る、募金活動を通じて山岳トイレに対して関心を持ってもらう。建設時においてもできる範囲で登山者に建設の手伝いに係わってもらう。そして一番重要なのは、「顔の見える維持管理」ではないでしょうか？福智山バイオトイレの維持管理は「筑豊山の会」がボランティアの主体となって行っています。筑豊山の会は、避難小屋の管理とトイレの管理を一体として行い、登山者とのふれあいも多く、トイレを大切に使う心をつかんでいるように感じました。

## 4. おわりに

### 山岳環境問題の取組みは、行政との協働と市民参加で！

福岡県山岳連盟では、山のトイレにしても森林の自然保護においても、市民参加を視点に行政を巻き込んだ活動を心がけようと考えています。福岡県では平成20年4月から「森林環境税」が導入され、県民一人あたり年500円の税金で荒廃した森林の再生に10年間かけて取り組むことになっています。これもある意味では市民参加（税負担）の取組みの一つではないでしょうか？これをきっかけに山岳環境の問題に県民の意識が向かい、山のトイレ問題や自然環境の保全にかかわる人たちが増えてくることを期待しています。

福岡県山岳連盟の自然保護の活動は始まったばかりです。できる事から一歩ずつ進んでいこうと思います。皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

謝辞：福智山バイオトイレの取材については、筑豊山の会会長 太田徹哉氏に多大なご協力を頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。